

①石塚英男：「東南極ナピア岩体：地球最古のクラトンと超高温変成作用」

石塚先生（高知大学理学部助教授）は、第38次日本南極地域観測隊員（夏隊）として調査・研究された南極ナピア岩体についてお話しされた。ナピアは南極昭和基地の東にあるため、観測船しらせを途中下船した先生ほか6名は厳しい自然条件のなか、キャンプ生活をしながら数週間を過ごし、地球史を探る上での貴重なデータを多数収集された。会場に運ばれた片麻岩等の岩石は圧巻であった。ナピアは Gondwana 大陸の一員としてインド東海岸と陸続きであったので、プレート運動を解明するうえでも重要である。

先日、本会のある会員から、吉倉先生も宗谷で南極に渡られたのですかという質問を受けた。もしそのとおりなら、吉倉先生は70代!? 実は、宗谷は昭和30年代の船なのです。